

≫≫ご自由にお持ちください≪≪

花と緑の情報をお届けします。

Green クリーンスケッチ Sketch

2006
winter

33

風 情 を 愉 し む。

特集

感じよう! 緑の力

「みんなで公園を育てよう
～公園管理シンポジウム」



植物に親しむ
旬の花でつくる
寄せ植え



にいがた四季の散歩道
本龍寺の**白椿** [三条市]
緑花センター掲示板
読者の広場



にいがた「緑」の
百年物語に
参加しています。



財団
法人

新潟県都市緑花センター

緑

力の

ちから

「みんなで公園を育てよう」公園管理シンポジウム

まちの中の緑、公園をより魅力あるものにするためには、環境をよくすることはもちろん、たくさんの人々が訪れ、活用することが大切です。

現在、県立公園では、新潟県の都市公園施策である「公園を育てる」という観点で、作業のボランティアや、花や緑をつかった講習会、イベントなどさまざまな活動が行われています。しかし、定着した活動はまだ少なく、もっと多くのみなさんに公園にかかわっていただける手法を模索しています。

このような背景があるなか、当センターでは、「みんなで公園を育てよう」をテーマにシンポジウムを開きました。

今号では、その様子を紹介します。

基調講演

「公園管理のあるべき姿を求めて」

本日は、私の住む長岡市の公園について少し申し上げたいと思います。

長岡市には、都市公園法という公園が、225あります。私の勤務する長岡市公園緑地課には、管理係が6人おります。そのほか、管理員として正職員が11人、臨時職員が4人の計15人おります。この人数では到底立派な管理は出来ません。そこで、「公園はみんな育てよう」と常々考えており、「あるべき姿」というのはおかげですが、「こんな考え方もあるのでは」ということをお話します。

長岡の公園といえば、長岡における公園の歴史の発端ともいえる『悠久山公園』があります。また、戊辰戦

争、第二次世界大戦の二度の災難を受けたことから、『平和の森公園』ができ、山本五十六の『山本記念公園』もあります。公園的施設として『西陵の森』（『雪国植物園』）、『千秋が原ふる里の森』があります。

そして、近年は自分たちの手で公園をつくらうという動きが見られます。

四郎丸地区では、地域のみなさんが「子どもたちが自然の中で自由に駆けまわれるような場所をつくらう」と立ち上がり、『赤城コマランド』の名称で年々輪を広げ、全国的にも注目されております。

旧山古志村の種芋原地区にある『あまやち会館』の周りの公園は、地震後は放置されて荒廃していました。これを見た建設業協会から、「公園整備を通して山古志の人々と一緒に汗を流そう」と提案がありました。





小林 正夫

社団法人日本家庭園芸普及協会技術顧問、新潟県花いっぱい連盟常任理事
元小学校教員で30年にわたり花づくりをおした教育に当たられた。
現在は、長岡市の公園緑地課に勤務され、地元長岡市はもとより、県内各地で花づくりや花をつかったまちづくりの指導を行っている。
全国花いっぱい運動の厚生大臣賞、平成16年秋の受勲「緑綬褒章」を受章。

建設業協会は、公園の整地と花壇づくりをし、春を告げるスイセンの球根を3万球用意しました。園芸用土をつくる会社では、被災に遭った山古志の樹木を堆肥化して、公園の花壇の土として里帰りさせました。

仮設住宅の集会所で講習会が開催され、当日は、保育園児、小学生、中学生全員と地域住民、ボランティア、建設業協会員が一緒になってスイセンの球根を植える作業を行いました。作業を通して、「公共の財産である公園」を自分たちの手で育て、住みよい地域にして住む、貴重な体験となったと思います。

阪之上小学校では、「悠久山学習」というものがあります。幼少期から公園の歴史、園内の自然を調べたり、ボランティアで活動したりすることで、学校愛と共に郷土愛が育っていくものと思います。学校では、『私たちの悠久山』という冊子が副読本としてつくられました。公園緑地課の管理係では新しく転動してきた方の必読本としています。「どうして公園ができたのか、園内にどんなものがあるのか」など詳しく書いてあり、大人



が読んでとても役立ちます。

旧中之島町では、7・13水害の際に、公園に仮設住宅ができました。ここを自分たちの力で癒しの場所につくり変えていこうと『作ろう塾』が結成されました。老若男女が参加して活動している、肩に力を入れず、共通の目的に向かって楽しくやっているそうです。

公園の花壇が荒らされる、花を盗まれるなどの問題も、管理に少しでも参加することで、公園や花壇に愛着を感じ、「美しい所に住む」のではなく、「美しくして住む」行動となるのではないのでしょうか。

私の住んでいる所では、小学校の旧校舎の跡地が空地になっていました。住民が、「ここに安全で安心で、安楽な場所をつくらう。楽しく過ごせる場所にしよう」と立ち上がり、さまざまな世代の人が参加して、遊べる山をつくり、樹木を植えて林をつくり、果物の木も植え、花壇やゲートボール場、芝生の広場もつくりました。こんな公園づくりが活発化してきた時でした。学校の卒業式に地域の人も出席するようになったのです。「地域の子どもが卒業するのはおめでたいことだから参加する」のだそうです。

住民参加があつてこそ、心の故郷となるような公園となり、価値ある財産となると感じています。



海藤 惣一郎

新潟市公園愛護連絡協議会第13ブロック代表理事。
近隣住民の中心となって、地域の小学校跡地の公園を管理している。
旧西川町議会議長などを歴任し、地方自治功労で新潟県知事表彰を受賞。



加藤 直人

「秋葉山自遊会」メンバーとして、秋葉公園(旧新津市)のボランティア活動を展開中*。
トゲンの会、九十九曲川の会、越佐昆虫同好会などの自然関連団体の会員。



清野 直樹

NPO法人緑化推進研究会副理事長、新潟市緑化審議会委員。
新潟市東公園のボランティア活動を展開中*。



伊藤 明世

NPO法人まちづくり学校理事、ピースボックス代表
地域コミュニティづくりやまちづくりに関する活動を展開中。

*「レッツ・アダプト・ア・パーク!新潟市、WAZA!アダプトプログラム」における活動

「みんなで公園を育てる」という取組みには、公園を公共の財産として大切に利用し、維持管理や利用促進に参加していこうという住民の意識の醸成が大切であるといわれています。しかし、県立公園で行っている活動への参加は、残念ながら積極的であるとはいえません。その原因として、大規模公園であるがゆえに愛着がわきにくい面や、プログラムが作りにくいという点が考えられています。一方、アンケートなどを通じ、「公園管理に手を貸したい」などの声が寄せられ、余暇活用としての公園活用の意識の高まりは感じられるものの、「どこへ行ったらいいか」という意見もあり、人材が埋もれていることも伺えます。

パネリストのみなさまは、公園愛護活動やボランティア活動、まちづくり活動に携わっておられる方々です。それぞれの立場から、公園をみんなで育てるための方法や仕組みづくりについて議論していただき、今後の公園管理に活かして行きたいと考えています。

小林 はじめに、お一人ずつ自己紹介もかねてお話をお願いします。

海藤 西川町が新潟市に編入合併すると同時に、公園はそれぞれの自治会から管理していただくという話がありました。私が自治会長になって再度依頼されたので引き受け、潟東村・岩室村・西川町（今年から巻町も）からなる第13ブロックの代表理事となりました。今年の6月末に、13ブロックの公園の管理者の方々に集まっていたとき、市の公園管理課長と地元の造園業者をお迎えし、管理の仕方を教わったところです。

小学校の跡地に升潟児童公園があり、私たちはその管理を預かっています。いろいろな人たちに参加していただいて、この公園を盛り上げていただきたいと思っています。

加藤 秋葉山自遊会は、旧新潟市の秋葉第2キャンパスの周辺の山林を、市のアダプト制度を利用して管理しようという集まりです。私の原体験としての里山は非常に明るく、よく管理されていたのだろうと思っています。今の秋葉山は、入って行くのが難しいほど低木が密生しています。杉がたくさん植えられ、竹が

密生していて、子どもにこれが里山とは教えたくないと思います。そして、日本人が長く続けてきた里山との関わりが、今後50年ほどでなくなってしまうのではないかと危惧しております。

私は、自分の記憶にある林をすこしでも再現できたら、と考えて活動しております。毎月集まって林をきれいにしたり、周辺のゴミを拾ったりという活動を続けております。

清野 私たちのNPO法人は、緑に関係した仕事を生業とした個人が集った団体です。昨年の6月にできたNPOで、現在は、新潟駅前地区の東公園で活動しています。公園内にはプールがあり、夏休みになるとたくさんの子どもたちが遊びに来ます。そのような環境の中、利用者のマナーが守られず、ゴミの投げ捨てなどが見られ、残念に思います。古くなり傷んでいる施設をリニューアル（補修、塗装等）することで、公園内の美化や利用者のマナー向上に少しでもつながってほしいと思っています。緑に関するお手伝いや、清掃などを行うことで、地域のみなさんと親しんでいけるよう、これから本格的に活動していきたいと思っています。

伊藤 まちづくり学校は、設立されて6年目に入りました。まちづくり学校では、まちづくりに関する人材養成を中心とした中間支援をやっております。様々なジャンルの人材養成を行っており、現在講座を受けられた方は300名を超えました。

今年からは新潟県NPO地域づくり支援センターとともに、新潟県内各地で、まちづくりやコミュニティづくりの活動をしたい、もっと活躍したいという方の人材養成を行っています。

小林 公園利用や里山づくりなどで、1人素晴らしい人がいると随分変わりますが、ナンバー2がいないと長続きしない面があります。

海藤さんは、リーダーシップを発揮されているようですが、どういったメンバーがいるのか聞かせていただけますか？

海藤 私のところでは、私が区長でその下に副区長がおり、一生懸命に公園の管理をやってくれているので、うまくいくのではなからうかと思っています。

旧西川町は新潟市のベッドタウンとして、住宅が増えました。新しい美里自治会では、2年前に町がつくった公園の中に集会所を建設しました。これが合併前に自治会に譲渡さ

れてからも、きれいに管理され、合併して1年で表彰を受けました。このように、これからは次代の住民がやっていかなければならないと思います。

小林 海藤さんの所は頼もしいナンバー2がいらっしゃるといってお話でした。

加藤さんは、会で里山づくりをしたいということでしたが、仲間を増やしていくための手法はありますか？

加藤 とにかく子どもたちいろいろな経験をしてもらうこと、自分たちが楽しむこと、仲間をつくること、この3つが一番大事だと思っています。もともとたくさんメンバーがいて、管理できる面積が広くなると里山という形になるかもしれないませんが、そういうことよりも、長く続けるためには自分たちが楽しめる会ではなくてはと考えて活動しております。

小林 子どもが出てくれば親も出てくるだろうし、楽しければ口コミで集まってくる、そんな姿が目に見えるような感じがしました。子どもが興味を持つものを準備することが大切ですね。そこには、楽しむだけではなく「学び」が入ります。

清野さんの組織は、活動の媒体をなにか考えていらつしやいますか？

清野 うちのメンバーで出来ることは、緑に関する技術的な提案ですが、住民がどのように思っているか、どのような公園づくりがしたいのかを、その場に参加してよく聞きとって提案する、という目標を持って活動しています。緑だけではなくて、地域と一緒にできるまちづくりなど、みなさんに啓蒙できることはいかな、という活動を目指しております。

人づくりを大切に

小林 私は長岡市の花いっぱい運動の時には「花づくりは人づくり、人づくりはまちづくり」ということで、お話ししています。





伊藤さん、人材養成の手法についてお話しただけですか？

伊藤 1回あたり5日間ほどかけ、ワークシヨップを活用して実際の会の立上げや、計画・立案等の手法をお教える『まちづくりのコーディネーター』の講座を開催しております。

今年の講座では、大学生から上は70代の方までいらしゃいました。毎回30名くらいで行きますが、集まるところは、本業もジャンルも違う方で、人的交流も目的として行われています。その中から仲良くなった方同士でまた何か活動するということもあります。

小林 いろいろな階層の人が入っていると、うまくいくという感じがします。

今、自治会でも、三つの大事なことがあるように思います。一つは、ことを大事にする、ということ。そして、別の場所ですった人が意見を自由に述べられるような雰囲気をつくる、ということ。まとめるのはかんだんではありませんが、うまく行くと非常に良い方向に向かうのではないかと思います。もう一つ、必死になってやっている方を大事にすることが、まちづくりや地域づくりでは重要です。

伊藤 まちづくりの中でも同じようなことがいわれています。先ほど、小林先生からご説明があった通りに、違う考えを持っている方の話を聞くということ、とにかく一生懸命な方を大事にしようということ。それから、

『若者』を大事にするということです。『若者』というのは、年齢的に若いということではなくて、高齢者の方でも気持ちの若い方、活動を先頭だつて推進していく方を大切にしようということですね。

「三共」とは？

小林 もう一つ、『三共』という言葉があります。みなさんも実際に体験しておられるようですが、同じ目的に向かって一緒に汗を流す『共汗』。その次に『共感』。一緒に汗を流すことによって、同じ気持ちになる。そして最後に共に行わゆる欲び合うという『共欲』。まちづくり、ボランティア、コミュニティづくりにしても、この『三共』を基本にして進めていくことが大事かなと感じます。

活動を進められ、このように感じたことはありませんか？

伊藤 私たちは、まちづくりの中で、理念づくりを非常に大事にしております。理念というのは、活動して行くための根本的な目的です。みなさんでこれに共感して共に活動し、共有するというのが大事な部分だと思っています。

加藤 活動で汗をかき、「酒でも飲みたいね」と誰かが言う、「そうだね」と相槌を打つ人がいて、「じゃ、今日はここに泊まって夜飲むか？」と言って、みんなでキャンプをするということを、何回か経験しました。共に汗を流しながら、共に感じている、共に飲んでいて、正に『三共』で、私たちは今、理想的な形で活動できている、という風に思いました。

海藤 私どもの地区は、昔からの農家が33戸くらいと、新しい団地の世帯と一緒に47戸の自治会になりました。集落では、秋が終わればお互いに仕事をしながら話し合いをしていきましたが、それが無くなってしまいました。集落には、農家の問題、跡取りの問題などがあります。今後は、集落の方々と垣根無しに

集まると、一つになって一生懸命やろうということとで協議しようと考えております。仲間を大事にして、旧西川町の先頭を切つて引張つていこうと考えております。

小林 長岡でも、新しく入つておいでになった方とのふれあいを図るために、花いっぱい運動をやっているところもあります。

また、団塊の世代の退職に際し、Uターンして来る人もたくさんいらつしやると思いますが、まちづくりや公園のボランティアなどに呼びこむのも良いのかな、と思っております。

海藤 コミュニティ協議会を立ち上げる時、新津の荻川地区という所を視察させていただきました。元々住んでいる方々が5千人くらいだったのが、今は1万5千の人口になり、20年前からコミュニティ活動をやっています。ある程度の団地ができると、いろいろな人材があつたり、まとまていくということを目の当たりにしました。

団塊の世代の方々が定年退職を迎えますから、私たちも何とかみんなできかに農業を守つて行くか、公園をどのようにして行くか

を一生懸命やらなければならないと思っております。

清野 ボランティアの方にいろいろ協力していただいて、というのがありますが、行政や公園管理者側として、現在、公園が時代のニーズに合っているのか、公園が活用されているのか、ということもまずみんなで話し合いをしなければならぬのかな、と思います。ただ「公園の草がひどいから、ボランティアで草を取ってくれ」ということじゃなく、利用する方はどのように思っているのか、何をしたいのか、を聞くことが必要なのかなと思っております。

小林 ボランティアを、ただ募集しても、参加するかしないかはみなさんの判断で決められるものでもあります。しかし、「税金を払っているのだから、(行政が)管理してください」という考えもあるかと思いますが、「つかわせてもらっている」という基本的な人間の考え方が大事ではないかと思っております。

パネリストのみなさん、貴重な体験談や思いをお話いただき、ありがとうございました。

シンポジウムを通じて、ボランティアなどの活動においては、活動を始める前、また活動していくなかで目的の設定、リーダーシップをとれる人の存在、継続性などクリアしていかなければならないことがあると感じました。

公園で地域住民参加型の活動を行う場合には、次のようなことを把握する必要があります。

現在、公園がどのようにつかわれているが、
地域のみなさんの公園に対する思い

活動の内容としてどんなことがあるか

この中でも、地域のみなさんがどう感じているか、というところは、活動の実現性、継続性に大きくかかわります。このことを大切に活動の実現に向けて事業を進め、地域のみなさんとともに「公園を育てる」ことを実現していきたいと思っております。

用意するもの



植物

- 1 コニファー（‘ゴールドクレスト’）
- 2 シロタエギク
- 3 葉牡丹（小さい苗）
- 4 プリムラ・ジュリアン

道具

- プランター（奥行き14cm×幅25cm×高さ9cm）
- 用土（市販の培養土）
- 鉢底石

旬の花でひんやりする寄せ植え

植物に親しむ

このコーナーでは、私たちの暮らしに彩りやうるおいを与えてくれる植物と、四季を通じてふれあう生活を提案していきます。
お部屋やお庭で、植物とともに季節の演出を楽しみましょう。

冬の間も大活躍する植物をつかって寄せ植えをつくってみませんか？
明るい色のコニファー、銀白色のシロタエギク、葉牡丹に囲まれて、
プリムラが次々と花を咲かせます。

- 1 鉢底土をしき、3分の1くらいまで用土を入れる
- 2 コニファーの位置を決める
- 3 プリムラの位置を決めてから、葉牡丹、シロタエギクを配置する
- 4 苗と苗の間に用土を入れる
（棒でつきながらすきまをよく埋めるように）
※いっぱい用土を入れると、水やりのときにあふれるので、縁から2〜3cmほど下げる



1



2

つくりかた

コニファーの位置によって、寄せ植え全体の雰囲気が変わります。
置く場所などに合わせて決めましょう。



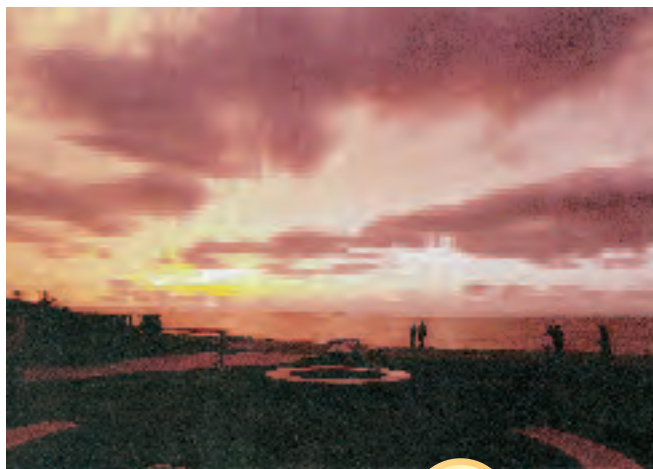
つかった植物は寒さに強いものですが、10℃程度を保てる場所に置くと、元気な姿を楽しむことができます。水は、土にさわってみて乾いていたら与える程度にします。午前中の暖かい時間に与えるようにしましょう。受け皿にいつも水がたまっている状態は避けましょう。

置き場所と
水やり



花と緑
県知事賞

「ボタン日和」
白石正夫



風景
県知事賞

「夕刻の散歩」
小形俊幸

「第3回都市公園・ 植物園写真コンテスト」 受賞作品決定

四季折々の公園のシーンをカメラで追い、公園に親しんでいただこうと開催しているこのコンテスト。第3回の応募総数は、81点（風景部門53点、花と緑部門28点）でした。そのなかから、受賞に輝いたのは、次の作品です!!



秋の植物園まつり会場で表彰式を行いました。

花と緑部門	賞	作品名	撮影者氏名 (敬称略)	居住地
	新潟県知事賞	ボタン日和	白石 正夫	新潟市
	理事長賞	とどかない	池田 友好	新潟市
	フジカラー賞	咲き誇る	松沢 淳一	五泉市
	特別賞	並んだ並んだバナナが並んだ	木山 一雄	新潟市
		水鏡	小林 剛	上越市
	入選	てんとう虫みつけた	村山 幸子	新潟市
		静寂	中野 彰	新潟市
		小さな主役桜	五十嵐美衛	新潟市
		あかいあじさい	長谷川敏男	新潟市
此岸に咲く		高島 慎一	上越市	
	チョコ色の自己主張	白石 正夫	新潟市	

風景部門	賞	作品名	撮影者氏名 (敬称略)	居住地
	新潟県知事賞	夕刻の散歩	小形 俊幸	新潟市
	理事長賞	静かなる夜のカーナル	遠藤 耕生	新潟市
	フジカラー賞	真夏の公園	佐藤 正明	新潟市
	特別賞	先生が呼んでるー	樋口 ノリ	新潟市
		雪道は楽し	白石 正夫	新潟市
	入選	秋間近!	大日方義久	上越市
		秋の丘	鈴木 万平	新潟市
		スプリング・フェスティバル	池田 友好	新潟市
		オッパイだ!	佐々木壽英	新潟市
晩秋の色模様		五十嵐美衛	新潟市	
水辺のファミリーー		太田 誠二	新潟市	

その他の受賞作品については、当センターホームページに掲載しています。 URL:<http://www.greenery-niigata.or.jp/>

おめでとうございます



1日目、先着20名の来場者に、あらかじめ用意した植物で寄せ植えを作成してもらいました。



10月21,22日に開催した公園まつりで、「寄せ植えコンテスト」を行いました。

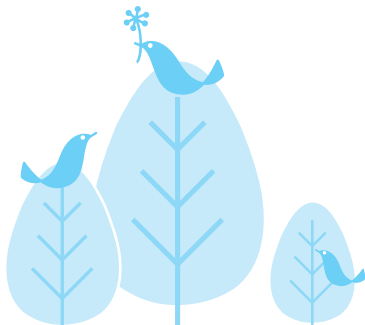
2日目の来場者による投票により、入賞が決まりました。



秋の公園まつり 「寄せ植えコンテスト」



新潟市 細山様
コメント「ただ一筋に咲く花は美しい」



緑花センター 掲示板

このコーナーでは、緑花センターの事業紹介や 緑花センターが管理運営している県立公園などの情報をお届けします。

Report ●開催日●平成18年10月21日(土)、22日(日)

「秋の公園まつり」を行いました

鳥屋野潟公園内「新潟県スポーツ公園」で、公園の魅力を多くの人に知ってもらうため、秋の公園まつりを行いました。

飲食物や植物の販売、フリーマーケット、ウォークラリー、寄せ植え・工作やニュースポーツなどの体験教室を行い、両日も晴天に恵まれたこともあり、たくさんの方が会場を訪れました。(同時開催:「ビッグスワンフェスタ」、「新潟県健康づくりフェスタ」)

カナルキャンドルナイト

中越大震災が発生して、2年。さらなる復興を祈念して、カナルキャンドルナイトを行いました(21日)。竹灯籠づくりは、公園まつり来場者のボランティアにより行われました。カナルに並べられた約600個のキャンドルの幻想的なあかりの中で、「ナチュラルー」のみなさんによる、二胡、フルート、キーボードのアンサンブルのコンサートが行われました。

candle night



カナル沿いに約600個のキャンドルが並べられました。

カナルステージにて「ナチュラルー」の演奏風景



竹灯籠づくり



工作教室

公園内の小枝やどんぐりをつかって工作教室を行いました。



参加者の作品

秋の公園まつり

ニュースポーツ体験

新潟県レクリエーション協会の協力をいただいて開催しました。



フリーマーケット

各日100組の出店で、たいへんにぎわいました。



カヌーの試乗

カナルでは、青空のもとカヌーの試乗。



同時開催のビッグスワンフェスタのひとコマ

Report ●開催日●平成18年9月1日(金) ●会場●新潟東急イン

「花と緑のアドバイザー交流会」開催

花と緑のアドバイザーのみなさんにお集まりいただき、意見交換会を行いました。

意見交換会には、19名のアドバイザーの出席をいただき*、現況の報告の後、みなさんにご協力いただいで進めている「ボランティア人材育成事業」について説明し、ご意見をいただきました。

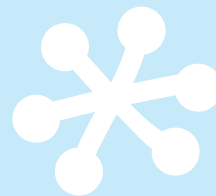
※現在の制度には、52名のアドバイザーが登録されています。

意見交換会の内容については、当センターホームページにて公開しています。

URL●<http://www.greenery-niigata.or.jp/>

制度については、(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会にお問い合わせください。

TEL 025-290-8055



News

「ビッグスワン新春フェスタ」開催!!

新潟スタジアム(ビッグスワン)で「ビッグスワン新春フェスタ」を開催します。

陸上トラックの無料開放、フリーマーケットやキャラクターショーなど、県民のみなさまに楽しんでいただけるイベントを開催いたします。

みなさまのお越しをお待ちしております!

●日時：平成19年1月14日(日) 10:00~16:00

●内容：陸上トラック無料開放、バックヤードツアー(案内付見学)、キャラクターショー
フリーマーケット、ビッグスワンカフェなど

●場所：新潟スタジアム(新潟県立鳥屋野潟公園内)
〒950-0933 新潟市清五郎68

●お問い合わせ：新潟スタジアム TEL 025-287-8811



当日はラウンジに「ビッグスワンカフェ」がオープンします。

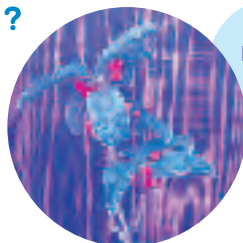


植物クイズ

お正月の縁起物、センリョウ(千両)、マンリョウ(万両)がありますが、百両という別名を持つのは次のうちどれでしょう?

①ヤブコウジ ②アルドオシ ③カラタチバナ

- 答えを綴じ込みのアンケートハガキにご記入ください。
- 正解者の中から抽選で5名様に粗品を進呈します。
- クイズのメ切は2月10日(必着)です。
- クイズの答えと当選者は次号(3月発行予定)に掲載します。



「百両」の園芸品種

32号植物クイズ当選者発表

正解は ②くり でした。
当選者は以下の方々です。おめでとうございます。

野崎のり子 さん 新潟市
井上 貞男 さん 新潟市
渡辺 良子 さん 三条市
水品 文夫 さん 十日町市
和久井道子 さん 五泉市

本龍寺の 白椿 〔三条市〕

三条市(旧栄町)の帯織にある本龍寺には、樹高9mを超えるツバキの木があります。お寺の建物の裏に育つこの木は、春先に小ぶりの白い花を咲かせます。

花の様子からヤブツバキの系統で、江戸中期に何らかのかたちでこのお寺に伝わった園芸品種と考えられます。その後このお寺の歴史にはツバキが寄り添ってきました。現在の住職(第十八代)のおじいさんのおじいさんの弟にあたる方は、小窓から見えるこのツバキをこよなく愛したそうです。また、五代目の住職は「タケとツバキを近づけてはいけない」と言い残したそうです。現在、このツバキの隣にタケの林があります。かつてにくらべると、タケを農具などの材として切つつかうことが少なくなり、根をはつて接近してくるそうです。

お寺では、タケを近づけないように配慮した

り、屋根に枝のかかる部分は屋根材を切りとったりして、この木を大切に守っています。

花のあとに実をたくさんつけるものの、根元に実生が見られません。落ちて実をお寺のご好意でいただいて帰り、植えてみましたが芽を出すことはありませんでした。

今後とも末永く伝わってほしいと思います。

●ツバキ(ツバキ科ツバキ属 常緑低木〜高木)

江戸時代からさかんに品種がつけられた。ユキツバキはヤブツバキの変種。日本海側多雪地帯に分布する。



2



1



3

- 1 白椿
- 2 花
- 3 ツバキとタケ林

「Green Sketch」秋・冬編では、当センターが行った調査(※)をもとに、新潟県内各地の名木・巨木「樹林地」を紹介していきます。

※平成13年度に、県内市町村に協力をいただいて行った調査。調査対象は、「未来に残したい樹木」「地域で愛されている樹木」で、国、県、市町村の文化財指定を受けていないもの。

いつも楽しく見ています。昨年のシクラメンが芽を出しました。今年は球根も腐らず、良かったです。土の入れ替えをしてあげました。

●10月10日アンケートより ●村上市 伊藤さん

無事に夏越しできて良かったですね。そろそろ花の咲くころでしょうか？

何年も上手に育ててあげてくださいね。

イベント情報でいろいろなところの情報が載っていました。紅葉や菊まつりがあるようなので出かけてみようと思います。

●9月28日アンケートより ●新潟市 長谷部さん

秋を満喫されましたか？これから冬でお出かけの機会も減りますが、春になったらまたたくさんのお届けしたいと思っています。

クイズの答えを調べるうちに、フランスではトチノキ(マロニエ)の実を食べられない、といわれていることや、日本で食用にするにはたいへんな手間がかかることなどを知り、知識が深まりました。

●10月18日アンケートより ●新潟市 森さん

出題者もクイズを考えながらいろいろなことを学んでいます。手ごたえのあるクイズをつくってほしいと思っていますので、森さんのように調べて解いていただけたらうれしく感じます。

おたより募集!

「Green Sketch」では読者のみなさまから花や緑に関するおたよりを募集しています。字数は300字以内なら何字でも構いません。ご自慢のお写真の投稿も大歓迎!!住所、氏名、電話番号を明記の上、下記までお寄せください。掲載にあたり趣旨は変えませんが若干の手直しをさせていただくことがあります。また、原稿・写真の返却、採否のお答えはいたしませんのであらかじめご了承ください。

郵便 〒950-0933 新潟市清五郎58番地
(財)新潟県都市緑花センター
情報誌「読者の広場」係

FAX 025-257-8766

e-mail center@greenery-niigata.or.jp
(e-mailでのおたよりは添付形式にせずにお送りください。)

花と緑の

お悩み相談室

Q

クリスマスを彩る鉢花「ポインセチア」のその後の管理を教えてください。

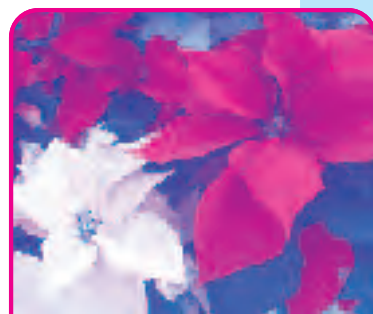
A クリスマスシーズンには、ポインセチアが人気でよく出回ります。季節物のイメージが強いですが、翌年以降も楽しめる植物です。

冬は室内で、日中は日が良く当たり、夜は10℃程度を保てる場所で栽培します。寒すぎるところや暖房が効きすぎているところに置いたり、水を切らしたりすると、緑の葉の落葉が進みます。落葉しても色づいた「苞(ほう)」*が残り、春にまた生長を始めるので冬の間もかわき具合を見ながら水やりを続けます(1週間に1回程度)。なお、水やりは暖かい時間帯に。肥料は、緑の葉があるころには液肥を2週間に1回程度与えますが、落葉したら与えなくても良いでしょう。春から秋にかけては、化成肥料(N:P:K等量)を月に1回株元に数粒置きます。

春から秋(10月くらい)までは戸外の半日以上日が当たる場所で栽培します。最低気温が10℃くらいになったら室内に取り込み、短日処理(ダンボールをかぶせるなどして完全な暗がり1日に連続12時間以上置くこと)で、「苞」の色づきを誘発します。苞が色づきはじめたら、処理を止めます。

生長に応じて鉢を大きくしていきますが、植え替えの適期は4月。3分の1程度に切りつめて、ひとまわり大きな鉢に植えつけます(用土は市販の培養土)。

*苞:葉が変形したもので、ポインセチアで赤・白・桃などに色づくのはこの部分。真ん中に小さく集まって咲くのが花で、短日条件下で花芽が分化するとこの苞が色づく。



ポインセチア

トウダイグサ科の常緑低木メキシコ原産。

「お悩み相談室」は、読者の方から当センターに寄せられた相談にお答えするコーナーです。家庭での園芸に関する疑問などをお寄せください。

「グリーンスケッチ」は、県民のみなさんとともに花と緑を育て、私たちが暮らすまちの中の緑を守り、さらに緑と花を増やしていくための情報誌です。都市緑化についてのご意見、みなさんのお住まいの地域にある自慢の花や緑の空間、花や緑の活動を行っている人や団体などの情報を緑花センターまでお寄せください。



何の芽?

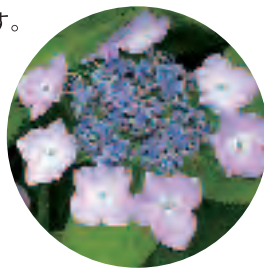
アジサイの冬芽(頂芽)

芽を守る芽鱗をもたない「裸芽」で、葉脈がよく見えます。側芽はうすくもろい芽鱗をもちます。

冬芽とは…

冬になると、木々は「冬芽(ふゆめ)」の状態です。樹木は、一見見分けがつかなくなりますが、この冬芽は樹種により異なります。鱗状の芽鱗をもつもの(ドウダンツツジやコナラなど)、毛の生えた芽鱗をもつもの(コブシなど)もあります。冬芽の枝からの出方、芽鱗の様子、葉痕*などにそれぞれ特徴があり、樹種の判別に用いられます。

*葉がついていた痕で、水・養分を運んでいた管の痕が残ります



寄付のお願い

財団の公益事業は
基金の運用果実により行われます。

当センターは県・市町村及び県民のみなさまから頂いた寄付金より基金を造成しており、その基金を安全・確実な方法で運用した運用益(果実)により緑花の推進事業を行っています。

寄付のお問い合わせ先

(財)新潟県都市緑花センター 総務課宛
TEL025-257-8711

寄付者紹介

(平成18年9月~12月まで・敬称略)

●緑花募金

基金の設立・寄付金等にご協力いただいたみなさまに厚くお礼申し上げます

編集後記

すっかり冬らしくなりました。木々も冬を乗り切るために、厳しい表情をしているように感じます。

暖かく過ごす準備は整いましたか? お部屋に緑を忘れずに。

グリーンスケッチは県関係機関、各市町村、主な図書館、病院などで配布しています。直接配布を希望の方は下記連絡先「情報誌係」までご連絡ください。



財団法人 新潟県都市緑花センター



〒950-0933 新潟市清五郎58番地
TEL 025-257-8711
FAX 025-257-8766
E-mail center@greenery-niigata.or.jp
URL http://www.greenery-niigata.or.jp



登録範囲は、事務局、鳥屋野湖公園事務所、紫雲寺記念公園事務所、県立植物園です。

